

適正な水管理で初期生育の確保に努めましょう！

育苗後半は高温傾向だったため徒長ぎみの苗も見られました。
 徒長苗は、特に水管理に注意し、分けつの発生を促進すると共にイネヒメハモグリバエの被害に気を付けましょう！

1 6月1日現在の生育状況（檜山南部管内生育状況調査、中苗・密播中苗ふっくりんこ）

	草丈(cm)	葉数(葉)	茎数(本/m ²)	特記事項
令和5年	14.1	3.6	97	生育・移植作業ともに平年並。
平年値	13.3	3.4	97	
差	+0.8	+0.2	+0	

2 移植後の水管理（分けつ促進）

- 分けつの適水温（日平均水温 23～25℃）を確保するために、入水は夜間から早朝に行うことを基本とし、日中は止水に努めて下さい。
 そして、晴天日は2～3cmの浅水管理とします。なお、分けつは昼夜の温度差が大きい場合に多く発生します（水温 昼30℃以上、夜15℃）。
- 徒長苗や老化苗を移植した場合は、健苗に比べ活着時期や分けつの発生が遅れるため、いつも以上に水温の確保を心がけて下さい。
- 低温や強風時には深水管理を行いましょう。

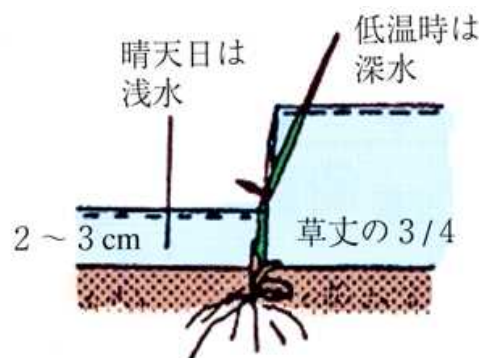


図 天候に合わせた水管理

3 イネヒメハモグリバエに注意！

- 水面に浮いた葉の上に産卵する習性があります。深水などにより葉が浮いている場合は、産卵される危険性が高いと考えられます。晴天日の浅水管理により、被害を避けましょう。
- 幼虫に食害された葉は枯れ、被害が小さい場合は、生育が遅れる程度ですが、被害が大きい場合は、株全体が枯死する場合があります。箱施用剤を使用していない場合や直播ほ場では特に注意しましょう。

～農薬の適正使用・飛散防止に努めましょう～

